

# 令和5年度 「市長と語る市政懇談会」記録



## 佐久島地区

令和5年8月1日（火） 午後2時30分から

佐久島開発総合センター〔集会室〕

市政懇談会次第

- 1 開会
- 2 市政運営について（市長）
- 3 地区とりまとめ意見・質問等の回答
- 4 自由意見交換
- 5 閉会

## 出席者等

校区代表町内会長	佐久島小校区：高橋伸義代表町内会長
地区関係市議会議員	本郷照代議長、前田修議員、松井晋一郎議員、磯部雅弘議員、杉浦功記議員
市関係者	中村市長、近藤副市長、山口副市長、稲垣教育長、西尾総合政策部長、築瀬危機管理局長、都築健康福祉部次長、小林市民部長、石川交流共創部長、山本産業部長、杉山建設部長、吉田都市整備部長、齋藤教育部長、杉浦消防長、服部佐久島振興課長 事務局：木下広報広聴課長ほか2名
出席者数	市民15人、地区関係市議会議員5人、報道関係者2人
事前意見・質問等	整理区分12件 内訳：意見1、質問1、要望10
自由意見等	整理区分10件 内訳：意見2、質問1、要望7

## 令和5年度「市長と語る市政懇談会」(佐久島地区)

### ○司会(広報広聴課)

皆様、こんにちは。

本日はお忙しいところ、「市長と語る市政懇談会」に御参加いただきありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます広報広聴課長の木下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る市政懇談会」佐久島地区を開会いたします。

開会に先立ちまして、皆様をお願いしたいことがございます。懇談会中は、携帯電話の電源はお切りになるか、マナーモードへの切替えをお願いいたします。

はじめに、本日の出席者を御紹介いたします。

この懇談会の開催にあたり、多大なる御協力を賜りました佐久島小校区の代表町内会長の高橋伸義様でございます。

続きまして、市議会からは本郷照代議長、前田修議員、松井晋一郎議員、磯部雅弘議員、杉浦功記議員にご出席をいただいております。

市からは、市長をはじめ、近藤副市長、山口副市長、稲垣教育長、そして関係部局の部長、部次長が出席しております。よろしくをお願いいたします。

なお、本日の懇談会の開催に当たりまして、衆議院議員の青山周平様からお祝い状を頂戴しておりますので、ここで御報告させていただきます。

本日の予定をここでご案内いたします。

最初、20分程、市長から市政運営について説明をさせていただきます。その後、地区の皆様から事前にお聴きしています御意見・御質問等に対して、市長が回答いたします。

また、事前にいただいた意見とは別に、皆様から広く御意見等をお聴きするため、自由意見の時間を設けておりますので、まちづくりに対する提案や御意見をいただければと思います。

懇談会の時間でございますが、午後4時15分までとさせていただきます。その後、事務連絡を幾つかさせていただきますので、閉会となりますのでお願いいたします。

途中、休憩時間等は特に設けませんので、必要に応じて入退室していただければと思っておりますのでお願いします。

また、記録用として録音と写真を撮らせていただきたいと思いますので、御了承ください。なお、懇談会の記録につきましては、準備でき次第、市ウェブサイトなどで公開をさせていただきますと思います。

それでは、市長から御挨拶を兼ねてお願いいたします。

### ○市長

皆さん、こんにちは。

西尾市長の中村健です。本日は「市長と語る市政懇談会」に御参加いただき本当にありがとうございます。

今までですと2年に1度行っていたのですがけれども、コロナ禍もあって開催ができない時期もありましたので、恐らくここでやらせていただくのは4年ぶりになると思います。

佐久島については、僕の認識としては2つの側面を持った島であるという見方をしております。1つは、島民の皆さんの生活という部分から見ると、島全体の人口は減ってきていて、高齢化が進んでいる中で、どのように今後もこの持続的な皆さんの安全・安心な生活を続けていけるようにしていくべきかというところでありまして、こちらについては、佐久島振興課の職員が非

常に皆さんとよくコミュニケーションを取ってくれていますので、そうした中で皆さんの声を丁寧に聴いていながら、行政としてやれることをやっていきたいというふうに思っています。

もう1つが観光地としての側面でありまして、西尾市が旧幡豆郡3町と合併をして12年がたちました。現状、西尾市内で一番遠くから観光客を呼べる場所はどこかという、まぎれもなくこの佐久島でありまして、テレビ番組などの報道もたくさんされておりまして、観光客についても、コロナ禍でいっとき落ち込みはしましたがけれども、基本的には好調な状況が続いているのかなというところではあります。

佐久島に観光客が来ていただけると、一定の消費活動をするとか、本土に戻ってからも市内の観光地を巡っていただけるということで、我々にとってはありがたい部分もあるのですが、近年、オーバーツーリズムという言葉が報道などでよくされるようになりました。これはどういうことかという、観光客が増え過ぎてしまって、地元の皆さんの暮らしに迷惑がかかってしまうということでありまして、愛知県だと犬山などがそういう状況になりつつあるようではありますけれども、この佐久島においても、レンタサイクルの利用マナーなどが代表的な例です。観光客の皆さんに来ていただけることで、島が潤う部分もあるのですが、それが皆さんの平穏な生活に対して必ずしもプラスの側面だけではないというのは僕自身も認識をしております。そのバランスをいかに取っていくかというところが、今感じているところでは特に大きな問題かなと思います。

今日の懇談会でも、その観点からの御意見もいただいておりますので、また後ほど答えさせていただきたいと思っております。いずれにしても、この佐久島という島は西尾市にとって大事なところでもありますので、引き続き皆さんの声を聴きながら、行政としてまちづくりに取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

ここからの時間については、本題の質問等に入る前に、配布資料で、A3サイズの横長の「令和5年度 施政方針に掲げる主な事業」という資料がありますので、こちらを見ていただいて、この中から僕のほうで幾つかピックアップをしながら、説明をさせていただきたいと思っております。佐久島に直接関係することは必ずしも多く書いていないのですが、皆さんの島での生活と関連づけながら、なるべくお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。ここからは座って説明をさせていただきます。

まず、一番見出しに大きく書いてある字として、「人が輝き、まちが躍動する、共生・共創のまちづくり」というものがあります。これが、僕の2期目の4年間でやっていく上での市政運営のスローガンとして掲げております。意味としては、この前半に書いてあることが全てなのですが、後半に共生・共創と書いてあります。ここの意味は、前半の共生というのは、要は多様性を尊重しようということで、障害のあるなしとか、国籍が日本人なのかどうなのかとか、性別の部分も含めて多様な立場とか多様な考え方を尊重して、どんな人であっても暮らしやすいまちづくりをしていきたいなという意味合いが、この共生という意味です。

共創というのは、まちづくりをやっていくにあたり、行政だけでやることには非常に限りがある中で、行政に対する皆さんのニーズとか御要望の声などいろいろ複雑・多様化してきている中で、うまく企業などの民間事業者の力も活用しながらやっていきたいという意味が、この共創ということです。市民の皆さんや企業の皆さんの力も借りながら、一緒になって、ともにやっていきたいという意味で掲げております。

そういったまちづくりをやることによって、一人一人が輝いて、西尾というまちも躍動するような、そういう西尾市にしていきたいという願ひというか意味を込めておりますので、まず御承知いただきたいと思っております。

そして、見出しが6個あります。その中で、最初の「新たな魅力に挑戦するまち」というところの2番目を見てください。「一色さかな広場を中心とした一色港エリア全体のにぎわいを創出」

ということで、今日も我々は渡船に乗ってこちらに伺っているのですけれども、ちょうど渡船場がさかな広場と同じ敷地内にあります。

さかな広場は、昨年度、経営体制が大きく変わりました。以前の経営者の皆さんが怠けていたとか、そういうわけでは決してないのですけれども、ただ、このさかな広場や、あのエリアというのは、もっと人を呼んで、もっと売上が上がる力を持っていると思っています。そこで、経営者が大きく変わりましたので、新しい経営体制の下で、これまで以上にしっかりと、そういった、あのエリアに人が来られるように、また佐久島で楽しんでくれた方が島から船で戻ってきた後も、なるべく楽しめるようにということも考えながら、にぎわいの創出に力を入れていきたいと思っておりますので、ここに掲げているということをお承知いただきたいと思っております。

続いて、7番目のところを見ていただきたいのですが、「テレビ番組や映画撮影を誘致するための取り組み」ということで、冒頭でお話をさせていただいたみたいに、この佐久島については非常に脚光を浴びている島でありますので、良いか悪いかは別として、テレビ番組などの、今日もCBCが来ているらしいですが、撮影がされていて、非常に多くの方々に、すごく自然が残っていて癒されるスポットとして知られているわけがあります。

西尾市全体のことと言いますと、やはり番組に取り上げられたり映画の舞台になると、市民の方が、自分たちのまちはすごいなというのを改めて認識するいい機会になったり、あとは聖地巡礼みたいな感じで、外から特定の目的のために観光で来ていただけます。マスコミで取り上げてもらうための活動というのは、この2年、3年、力を入れておまして、その結果として、最近でも幾つかの番組でロケの取材などをしていただけるようになったので、引き続きこの分野については力を入れていきたいと思っています。

次に、その3つ下を見ていただきたいと思っておりますけれども、「にしおマラソン」のコースを一新し開催」ということで、島の中をマラソンで走ることはできないのですけど、令和4年の3月、要は今から一年半ほど前に、第1回にしおマラソンを開催しました。このにしおマラソンというのは、フルマラソン大会ですけれども、僕としては、西尾市を代表するイベントに育てていきたいというふうに思っています。西尾といえば抹茶だよねとか、ウナギだよねとか、佐久島だよねというものもあるのですけど、マラソンもあるよね、と言ってもらえるぐらいのものにしていける可能性は十分あると思っています。

なぜかと言いますと、マラソン大会は結構いろいろな地域でやっているのですが、フルマラソンというのはなかなかやれている地域がありません。一色町もハーフマラソンをやっていましたが、ハーフマラソンぐらいであれば愛知県内でも幾つもあるのですけれども、フルマラソン大会という、3月に名古屋ウィメンズマラソンというのをやっていますが、あれは女性の大会です。男性が愛知県内で参加できる、公道を走るタイプのフルマラソンというのは今までなくて、にしおマラソンが初めてというか、唯一になります。にしおマラソンは、ランナーにとって非常に価値があるものに育てていけると思っています。

あとは、ただ42.195キロメートル走ってもらうだけではなく、せっかく西尾に来て走ってもらうのであれば、おもてなしの心だとか、西尾市の特産品を走行中に食べてもらうとか、温泉に宿泊してもらうとかも含めて、西尾を満喫する1つのきっかけとしてマラソン大会に参加してもらえるような、そういう工夫もしていきたいなと思っています。

第1回はいろいろ反響が大きかったですけれども、良かったという声もたくさんいただいた反面、反省点も実はいろいろありました。交通規制の問題だとか、合併したのだから西尾、一色、吉良、幡豆、全部通ったほうがいいよねとか、いろいろな声がありましたので、それを踏まえてコースの再検討などをさせていただいて、第2回来年の1月21日にやりますので、島の方でもマラソンやっているよ、という方は御参加いただきたいと思っております。

次、2番目の見出しに行きます。「誰もがほっとする持続可能なまち」ということで、2番目で

すけれども、「株式会社デンソーの工場進出に伴う名鉄上横須賀駅周辺の住宅地整備、名鉄の利用促進、渋滞緩和対策を目的とするまちづくりの推進」ということです。今後10年間ぐらいを考えたときに、デンソーが新しい大きな工場を吉良の北部に建設する予定でありまして、今、その土地の造成といって、山を切り開いて準備を進めています。今年度中にデンソーさんに売り渡されて、そこから工場を建てます。

従業員が3,000人ぐらいは来るのではないかということなので、いわゆる、企業に来てもらって終わりではなくて、従業員の方からすると、職場と家が近いほうがいいよねとか、仕事が終わった後に一杯飲みに行きたいよねとか、いろいろあります。それが西尾市のまちづくりの中で、住宅地を建てるとか商業的な店を整備するとか、そういったことができやすいように、今後、民間の投資を呼び込めるように、土地の利用規制をちょっと緩和したりしています。

デンソーさんが来るということ、名鉄の利用促進も含めて、西尾市のまちづくり全体として大きなプラスの影響が出るようにしていきたいということです。今後10年を考えた上では、このプロジェクトが一番大きなプロジェクトになるだろうということで、佐久島の皆さんにも知っておいていただきたいと思います。

続いて、この見出しの下から2番目のところですが、「水道水の安定供給のため、重要管路の耐震化、老朽管の更新及び漏水調査を計画的に実施」とあります。

水道管というのは作ってから結構年数が経過してきていて、計画的にそれを更新しています。ここでお伝えしたいのは、佐久島の送水管を更新していくということが、今、市の中で大きな課題になっています。佐久島の送水管については、南知多町さんが事業主体でありつつ、市でお金を負担する形でやっています。今ちょうど南知多町さんと話をしている、離島振興法が改正されたのに伴って、送水管の更新に対する国の財政的な補助を上げてもらいました。

今は、愛知県に対して補助をお願いしているところでありまして、その辺りの話が整えば、南知多町さんとは随時話をしていますので、この佐久島の送水管についても更新の工事にかかると思っています。

何億とする工事でありまして、なかなか西尾市のお金だけでは正直、大変でありまして、国や県の補助をいただきながらやっていきたいと思っています。そんなに悠長にゆっくり考えていられる問題ではないので、なるべく早く工事に取りかかれるように最善は尽くしていきたいと思っていますので、ご承知ください。

次、3番目の見出しの「ともに楽しみ、ともに学び、ともに夢みるまち」というところです。一番上に、「全世代の市民が集う多様な学び・交流の場として（仮称）生涯学習センターの基本設計に着手」とあります。これは西尾市文化会館という大きな建物がありますが、その近くに、テニスコートとか中央ふれあいセンターという生涯学習の施設がありまして、そこを再開発のような形で、生涯学習センターというものを造っていきます。

機能としては、不登校になった子供が、学校の通常学級に戻る前に、あゆみ学級と言って、もう少しルールが緩やかな中で過ごしてもらおう学級があるのですけれども、その機能を入れたりだとか、今、西尾市でも外国人の子供たちが増えているので、その外国人の子供たちに対する学習の部分のサポート機能を入れたりだとか、あとは先生方が研修をする機能とか教育的な部分とか、それに加えて、子供たちの室内での遊び場の機能も入れていきますので、そういう結構大きなコンセプトの施設というか、センターを造っていきたくと思っています。令和9年度の初めに稼働できるように準備を進めていきます。

続いて、下から4番目のところを見ていただきたいのですが、「西尾市小学校プール全体計画」に基づき、小学校水泳授業の温水プールへの移行を計画的に実施」とあります。佐久島は今、一色南部小学校か何かでやっているのですよね。西尾市全体のことで言うと、多分、1970年代ぐらいに、学校のプールを一斉に造っているのですが、老朽化してしまったり、近年

は猛暑でなかなか屋外のプールで授業ができなかつたりしているため、学校プールを全部新しくしていこうとしても、莫大なお金がかかってしまうので、民間のスイミングスクールなどを利用して、そこに授業の委託をしようとしています。

学校の先生よりも水泳指導はスイミングスクールの方のほうが慣れているので、子供たちの授業の部分もより質の高い授業ができるということで、順次、学校のプールでやっているものを民間のスイミングスクールでの指導に切り替えていこうと思っています。

それに伴って、西尾市全体を切り替えていくと、恐らくプールの数が足りないだろうというシミュレーションをしまして、もう1個公営の温水プールを造っていこうと思っていますのですけれども、現状では、そのプールを造る場所として、旧一色支所が今はまだ建っているのですけれども、あそこの跡地が一番いいと我々は判断しています。今後、早ければ2029年度ぐらいのスタートを目途にプールを造って、ゆくゆくは、特に一色の学校はそこに授業を全部集約させていって、指導者に来てもらいながら授業をやっていくということを考えています。

全国的に、学校のプールを全部新しくしていくのは難しいよねという時代の中で、そういう流れになりつつあるのですけれども、子供たちに泳ぐ力を身につけてもらうとか、コストをなるべくかけないようにするという意味では、現実的にはそれが一番いいのかなと思っていますので、ご承知ください。

次に、資料裏面をご覧ください。

5番目のところで、「市民病院の医師不足解消に向け、大学医局への医師派遣依頼、県への地域枠医師配置依頼、医師紹介会社を通じた転職希望者の採用検討などを継続」というところです。ここにも佐久島診療所がありますけれども、西尾市民病院は西尾市の地域医療の一番中核を担う施設であります。医師が不足していて、住民の皆さんの期待に応えられるだけの医療を提供できていないという苦しい状況があるのですが、ドクターを自前で採用するというのは、この医療の世界ではなかなか難しいです。

基本的には、ドクターというのは大学の医局という組織に所属していますので、その大学から派遣をしてもらうという形で多くの病院がドクターの体制を整えているのですけど、西尾市についても同様でありまして、大学に、「こういった苦しい状況ですし、ほかの地域に比べて人口当たりの医師数も少ないので、何とかドクターを派遣してください」ということを足繁く、年間、僕だけでも10回ぐらいとか、病院の院長になると20回以上とか行って、やっています。

基本的にはしっかりと大学にその要望をしていくというのが、現実的に医師を増やす手段になりますので、そこをこれからも抜かりなくやっていきたいということです。あとは愛知県独自に医師を派遣できる枠なども若干ありますので、そういった中で、西尾市民病院に赴任できるドクターを増やしてほしいという要望もしていますので、何とかドクターの数が少しでも増えるように全力を挙げてやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

続いて次の見出しになります。「いのちを守る 暮らしを守る 環境を守るまち」ということで、下から5番目のところを見ていただきたいのですけれども、「一色町生田地区の産業廃棄物最終処分場建設計画への反対の方針を継続し、白紙撤回を要求」とあります。

一色町の生田地区で、民間の産業廃棄物処理をやっている事業者が、大体50ヘクタールぐらいになるので、東京ディズニーランドとの同じぐらいの広さなのですけれども、そこに産業廃棄物最終処分場を建設しようという計画があって、平成25年にそれが新聞の1面で明るみになって、それ以降、事業者としてどうするのか、市としてどうするのかという話があります。そういった動きがあった中で、僕が平成29年の7月に就任をさせていただきました。以後はずっと反対の姿勢を貫いています。

これについて、あまり深く話す時間はないですけど、トラックが1日何百台も通るとか、騒音とか臭いの問題が出るかもしれないとか、漁業が盛んな地域でそういったごみの処分場ができる

ことによる風評被害とか、あとは南海トラフ地震が起こったときに、恐らく三河湾にごみが全部流れ出てしまうので、取り返しのつかないことになってしまうとか、いろいろなリスクがあるので、市としては反対をしています。

それに対して、民間の事業者が、産業廃棄物の処分場ということについては、取りやめとか考え方を変えて、残土置き場にしたいとか、太陽光発電に使いたいとか考え方を変えてきてまして、それは悪いことではないのですけれども、残土は残土でまた問題があったりするので問題は解決していないということと、検討しているだけで、まだ正式に処分場を造らないということを表示はしていません。しっかりと白紙撤回で、もうやりませんということを表示してくださいとお願いしている状況です。予断を許さない状況ではありますけれども、今そういった状況にあるということをお場でお伝えします。

2 個下を見ていただきたいのですが、「「ごみ問題を考える市民会議」で提案された対策の実施について検討」とあります。家庭から出る、家庭だけではないのですけれども、西尾市として排出されるごみの量をいかに減らしていくかというのは、今、地味けれどもすごく大きな問題です。皆さんはご存じないかもしれませんが、家庭から出る 1 人当たりのごみの量というのは、今、西尾市が愛知県内では一番多くて、ワーストという不名誉な記録を持っています。

そういった中で、最近だと雑紙と言って、紙のリサイクル率を高めるために去年、袋を配布させてもらうなどリサイクルに力を入れていて、一定のリサイクル率、回収量が上がっていますけれども、まだまだほかに、生ごみとかを始めとして、ごみの量を減らすための取組でやらないといけないことがたくさんあります。

そのために、ごみ問題について関心がある市民の皆さんに集まっていただいて、その検討のための市民会議を作っていただいて、その中で、具体的な取組などがこれから我々に提案されますので、それを尊重しながら更なるごみの削減に取り組んでいきます。島の生活だと、多分そまごみの排出は多くないと思いますけれども、西尾市としては、そういう問題意識を強く持っていますので、皆さんの生活の中でもリサイクルできるものを捨てないなどの意識を持っていただけるとありがたいと思います。

最後の見出しの下から 2 番目を見てください。「市役所窓口における申請書への記入や本人確認の手間を省略することができる「書かない窓口サービス」の導入」ということで、ここで言っているのは、市役所で手続きしたときに、いちいち書類に書いてもらわなくても、デジタルの技術を活用して手続きできるようにしていきますということです。

これには先がありまして、理想としては、市役所に来てもらわなくても手続きが完了できるようにしていきたいという思いがあります。そのために、皆さん、LINE を例えば孫とかとのやり取りに使っている方もいると思いますけれども、西尾市の LINE というのを持っていて、その中で、例えば住民票を発行したいというときに、市役所まで来て手続きしてもらわなくても、全部 LINE の中で手続きが終わって、郵送で住民票などが家に届くような形のサービスを今整えています。

特に島から市役所に来るのは面倒なので、ぜひ使ってもらいたいと思うのですけれども、デジタルはちょっと苦手だという人もいないですか。そういう方に、もうデジタルしかやり方がありませんよというのは酷なので、今までの手続きも残しつつ、デジタルのサービスも対応させていきますので、どういうふうに使えばいいのか分からないときなどは、佐久島振興課の職員などを呼んでもらってもいいです。なるべく手続きにデジタルを使うということを考えておいてもらおうと、実はそんなに難しくなかったりとか、思った以上に便利だということがありますので、ご承知いただきたいと思います。

この時間の僕からのお話は以上とさせていただいて、この後また、事前にいただいた御意見と御質問に答えさせていただきますので、よろしく願いいたします。

### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。

今、市長が説明をいたしました市政運営につきましては、最後の自由意見のところで意見等をお伺いできればと思っております。

ここからは、事前に御提出をいただきました御意見や質問等に対して、市から回答をさせていただきます。

限られた時間で効果的に懇談会を進めるために、今回、12件の御意見等を事前にいただいておりますので、代表町内会長に質問等を1件ずつ読み上げていただいて、その後、市長から回答をするという形で進めたいと思います。

1件ずつ時間を区切って、その質問・意見等に対して皆様から御意見を伺えればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは1件目、「佐久島1号線道路の事故防止対策について」、高橋会長、よろしくお願いいたします。

### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

それでは1件目です。

佐久島への観光客が増加していることに伴い、佐久島1号線道路が混雑し、大変危険です。佐久島1号線は島のメイン道路で、日頃から多くの自転車、自動車、一輪車、歩行者が通行しており、特に自転車の交通マナーが悪いと感じます。

具体的には、貸し自転車の3台での横並び走行、自撮りをしながらの運転、釣り竿を片手に持ったままの運転などが見受けられます。道路の両脇にあふれています。自転車や釣り竿を避けようとして、自動車が側溝に落ちる事故も発生しています。

佐久島1号線には歩道がありませんので、緑色のカラー塗装をするグリーンベルトを設置していただくことで道路を確保して、交通事故防止を図ってください。

1件目は以上です。

### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。市長、回答をお願いいたします。

### ○市長

はい。これは、観光客が増えて悪影響が出ている典型的な例かと思います。多分、観光客の皆さんは、日常から離れて開放的な気分になっているので、それはそれで気持ちは分からないわけではないです。多分、その島で暮らす人たちがどう思うかという視点が欠けてしまっているのだと思うので、こういうことになってしまっているのだと思うので。

我々としても、そういった状況は常々聞いていましたので、現状、やっている対策といたしましては、市が発行している「佐久島体験マップ」のようなパンフレットが幾つかあるのですが、その中で、佐久島での自転車の乗り方などについての注意事項を記載して、それを渡船場で配布するとか、船内アナウンスでも、そういったマナーを遵守していただきたいということはやっています。

やっているのですが、大きな効果が出ていますかと言われると、そう改善されていませんので、今回また改めてこういった御意見もいただきましたので、より効果的な対策として何かあるかというところは一度検討して、それを実施させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（広報広聴課）

ただいまの市長の回答について、何か御意見・質問等があれば、挙手をお願いできますか。よろしいですか。

それでは、次、2件目に移りたいと思います。2件目は「佐久島における津波避難について」です。高橋さん、お願いいたします。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

2件目です。

現在、西尾市の南部地域では津波避難タワーの建設が進められていますが、佐久島における津波発生時の避難の行動は、どのように行えばよいですか。

○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

○市長

今、一色地区、吉良地区を中心に津波避難タワーの建設をしております、将来的に合計で10基建設をしていきたいと考えています。どういう場所に設置しているかということ、南海トラフのような大きな地震が発生したときに、津波が来る前に一定の時間がありますので、その間、基本的には津波浸水想定区域外、要は津波が来ると思われるところからもっと外、北のほうに逃げてくださいというのが市の基本的な方針になりますが、人間が移動できる距離というのは限られています。特に高齢者の方々のように、なかなか早く遠くまで行くのが難しい方に対して、海拔ゼロメートル地域のところにタワーを設置しているということです。

佐久島はどうかと言いますと、理論上の、いわゆる最大想定モデルという中では、最大で5.6メートル津波が来るだろうというふうに言われているのですけれども、ただ、近くに高い山等があって、避難ができない場所ではないというのはまず承知していただきたいと思います。

佐久島については、開発総合センターというところがあります。そこが避難所として指定されていますので、そこに逃げていただければいいのですけれども、家からそこまで歩いてもらって、津波が来るまでの時間に間に合わないということであれば、近くの山に逃げただけという形で、自分の自宅からそういった避難すべき場所まで、多分、皆さんは島のことはよくお分かりなので、どのぐらい時間がかかるのかなというのは分かるというふうに思うのですけれども。

あとは、その津波が来るまでの時間に間に合うかどうかということ判断して、開発総合センターに行けるのであれば行っていただければいいし、難しいのであれば近くの山に逃げただけであれば、津波発生時の行動としては大丈夫だというふうに思います。

具体的に、いわゆる津波が来る場所なのか、それより外なのか中なのかとかいうのは、ハザードマップというものを市で作って全戸配布していますので、それを確認していただいて、改めて、自分がいざというときにどういうふうに逃げればいいのかというところを、確認しておいていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○司会（広報広聴課）

それでは、今の津波避難に関する関係で、御意見・御質問等があれば挙手をお願いいたします。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

いいですか。

○司会（広報広聴課）

はい、高橋さんお願いします。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

福島の酒田というところで、津波でまちが全部なくなってしまったというところに行ってきたして、福島のチリ沖地震のときに、酒田のところに海が見えないぐらいの防潮堤があるのですけれども、その防潮堤をはるかに越えて津波が来た。

佐久島にいと、皆さん危機管理が薄いような気がして。開発総合センターでも、学校でも、防潮堤を越えるぐらいの福島の津波が来たらまず助からないだろうと思ってしまうのですね。

結局、知多半島と渥美半島に囲まれていますので、取りあえずは、知多半島と渥美半島が防波堤になって、佐久島の三河湾に入ってくる波は小さいだろうと。皆さんそういうことで、ちょっと危機感が無さすぎるような気がしています。

取りあえず私どもとしては、ここの島の一番高い山で38メートル、低いというかほかの山でも36メートルあるので、取りあえず島のおじいさん、おばあさんを車に乗せて島の頂上まで行けるような幅の広い舗装道路を造ってもらいたいなと思って、この意見を出しました。ぜひともその辺を考えて、避難タワーではなくて、ここは高いところなので、とにかく山の上に登ればいいわけですから、そのための道路を造ってほしいなという意味で、この意見を書かせてもらいました。その辺よろしくをお願いします。

○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。御意見として承らせてもらいます。よろしいでしょうか。

では、3番目の御意見になります。

「浮棧橋の設置について」です。高橋さんお願いいたします。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

3件目は「浮棧橋の設置について」です。現在、西港及び入ヶ浦港には浮棧橋がありません。潮位によっては、港と船の高低差が1.5メートル程度になるため、乗船や荷物の搬入が困難です。アサリを入札した業者が運搬する場合など、作業効率が悪く、危険も伴います。西港及び入ヶ浦港に浮棧橋を設置していただき、安全確保と作業の効率化を図っていただくようお願いいたします。

3件目は以上です。

○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。市長、回答をお願いいたします。

○市長

浮棧橋については、新しく造る計画というのは正直、現時点では無いわけですが、漁港における登録漁船数ですとか漁獲量等、そういった利用状況を見る中で必要性を判断させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○司会（広報広聴課）

ただいまの回答について何か御意見とかありましたらお願いいたします。大丈夫ですか。

それでは次へ移ります。

次は4番目です。「船台の設置について」になります。高橋さんお願いいたします。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長**

4件目は「船台の設置について」です。

東港と西港に1台ずつ設置されている船台は、修理や補修をしながら数十年使用してきましたが、鉄骨がやせ細り、修理も難しい状態です。特に東港の船台の状況が悪く、4～5トンの船が揚げられず、船の修理や船底の掃除を島外の造船所で行っているため、時間と労力がかかる上に料金も高額です。このままでは、東港では小さな船も利用できなくなります。また、西港の船台も大きな船を揚げるのが危険な状態です。

そこで、西港の船台を東港に移設した上で、西港に路線が広い船台の新設をお願いします。西港に新設されれば、東港の船も利用できます。新設する際には、使いやすい船台にするために、漁師等の意見も取り入れていただきたいと思います。補助金などが活用できるようであれば、市と利用者が協力して方向性を模索していきたいです。4件目は以上です。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

**○市長**

船台については、ここに来る前に直接現地を見させていただきました。確かに傷んでいるところとは十分承知したところでありますけれども、漁協さんの管理する施設になりますので、ここで言うと西三河漁協になるのだと思いますけど、管理している施設がたくさんある中で、多分、優先順位をつけて、まずここからお願いしますというのがあって、それを受けて、例えば国とか県の補助金がうまく取れるように我々としても支援させていただくという形でやっています。この船台についても、西三河漁協さんには、状況だとか、佐久島としてこういった考えですよというところは伝えますので、それを踏まえて、漁協さんから出てくれば、市としてしっかりと支援をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

**○司会（広報広聴課）**

今、4件目の船台の設定について市長から回答がありましたけれども、質問・御意見等があれば願います。

**○西三河漁協鈴木様**

いいですか。

**○司会（広報広聴課）**

はい、お願いいたします。

**○西三河漁協鈴木様**

西三河漁協の鈴木です。漁協の方からの要請ということですが、この意見は西三河漁協佐久島支所からのものです。町内会からではありませんので、それだけはよく承知してください。

それと、やはり船台も古いものですから小さいですよ、物が。やはり船ばかり皆新しく大きくなってきて、段々段々あれでは揚げられなくなっているのが現状で。船を落として倒して使うよりああいうところを直していただいたほうがいいかなと思って要請しました。

優先順位と言いますといろいろあるんですけど、さっきのポンツーンの話もそうなんですけど

も、今現在としては船台を早いところ直して、漁師の方も安心して船が修理してもらえるようにしてもらいたいです。

**○市長**

ちなみに、ちょっと質問なのですが、東港と西港に1台ずつという話だったではないですか。僕は東港のほうを見せていただいたのですが、設置する場所が西港に比べてあまり広く確保できないので、大潮の時に浸かってしまいますという話をしましたよね。

**○西三河漁協鈴木様**

浸かってしまいます。半分は海水の中に浸かったままになってしまうのですよね。

**○市長**

そうすると、例えば西港に設置する場合に、2つ設置するというだけでもいいのですか。それとも1台ずつのほうがいいですか。

**○西三河漁協鈴木様**

2つではなくて、こちらの意見としては、今、西の船台がまだ比較的綺麗です。だから、欲を言えば東の船台を撤去して西の船台を東へ持って行って。それで西の船台は実際には広いところにありまして大きい船でも揚げられるのですが、船台が小さいわけなのですね、古いものですから。だからそちらを拡張してもらえれば、東の船もそちらで揚げて修理とか船底とか、そういうものができるということです。

だから、今、西にある船台を東に持って行ってもらえれば、まだ数十年は使えると思うのです。

**○市長**

船台としては2台あったほうがいいですか。

**○西三河漁協鈴木様**

あったほうがいいです。

**○市長**

2台のときに、西港が広く取れるので、西港に2台ではなくて、西港に大きいほうで、東港に小さいほうというのが、佐久島の漁師さんとしてはそれが一番良いということですか。

**○西三河漁協鈴木様**

それが一番適当です。船の杯数としたら、やはり東側のほうが少し多いものですから。小さい船しか揚げられなくなるのですが、そのほうが利便性としたら一番いいと思います。

**○市長**

分かりました。設置する際は当然、地元の御意見を聞きながらになると思います。

**○西三河漁協鈴木様**

そうですね。ぜひそうしてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

**○司会（広報広聴課）**

御意見ありがとうございます。そのほかはよろしいでしょうか。  
では5件目に移りたいと思います。高橋さん、5件目をお願いします。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長**

5件目は「排水路の整備について」です。

佐久島では、雨水、汚水を海に流していますが、排水路が土、石、枯葉、倒木などで詰まっているため、大雨が降ると氾濫、冠水します。特に東港西側地区の被害が大きく、床下浸水することもありますので、排水路の整備をお願いします。

5件目は以上です。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

**○市長**

こちらについては、我々として、市内でどういったところに排水路があって、詰まっていたかどうかというのを、なかなか全部が把握できません。町内会さんとかに工事要望を出していただく中で把握して対応するという形を取らせていただいていますので、この件についても工事要望書を提出していただく中で、ここだよというところを示していただいて、それに対して我々のほうで対応するという形を取らせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

**○司会（広報広聴課）**

今の排水路の整備の関係で御意見等があればお願いいたします。よろしいでしょうか。

では続きまして、6件目に移ります。「佐久島診療所の医療機器について」です。高橋さんお願いします。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会**

6件目は「佐久島診療所の医療機器について」です。

佐久島診療所では、レントゲン装置を始めとする医療機器が古いと感じます。以前、骨折したときに、佐久島診療所と西尾市民病院でレントゲンを撮影しましたが、技師の技量の違いもあるかもしれませんが、診療所の撮影した写真には骨折の部分がはっきり映っていませんでした。

必要な医療機器を導入・更新していただければ、医師にとっても総合医療の勉強になり、診療所への派遣を希望してもらえるかもしれません。

また、けが人の内容や医師の専門外の場合には、すぐに救急車を手配してくれていますが、例えばマムシに噛まれた時など、島内で処理できる内容を増やしてほしいです。併せて、医師の派遣期間を今よりも長くして、同じ医師に継続的な医療を受けられる体制を整えてください。

6件目は以上です。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

**○市長**

まず、レントゲン装置については、令和2年度に現在の装置に更新というか新しくしていますので、古いということはないと思いますけれども、ただ、画像が不鮮明であるという御指摘でありますので、一度専門業者のほうに点検を依頼して、今後そういったことがないようにしてい

たいと思います。

あと、診療所に対応できる内容については、多分、マニュアルみたいなものを作るのは難しく、赴任されるドクターの守備範囲というか、どこまでできるかという技量によるのだろうと思いますけれども、建前としては、佐久島診療所は内科ということで、医者と看護師1名ずつですが、整形外科的な処置もやっていると思うので、必ずしも内科にとられるのではなくて、ドクターが島民の方を診る中で、自分ができることは極力、島でできるようにはさせていただいていると思います。それは今後も変わらないのですが、島の中だけで対応が難しいといったときには、消防と協力しながら救急搬送等をさせていただくという方針は今後も変わらないと思います。なるべく島の診療所で診られるようにというところはやっていきたいと思います。

あと、ドクターの派遣期間というか赴任期間については、いわゆる僻地医療という形になるのですけれども、そういった診療所に勤務するドクターについては、国の自治医科大学卒業医師キャリア形成プログラムというものがありまして、その中で勤務計画が定められていますので、その決められた期間を短くするとか延ばすというのは、なかなか難しいところであります。

ただ、新しいドクターが来るにしても、しっかりと島民の皆さんの信頼に応えられるようなドクターを派遣してほしいということは、市としてはしっかり要望というか、声は届けていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会

2年ぐらいでドクターがみんな変わってしまうのですが、島のおばあさんたち、おじいさんたちの体の状況が分かって、把握してもらった段階で出ていってしまうので。次に入ってくる人は、また新しく一から勉強しなくてはいけないし、島の患者さんも、結局、自分のことをこれだけ分かってもらえるのに、2年たつと出ていってしまうと。それが何かちょっと寂しいなという感じがしています。

#### ○市長

そこはおっしゃるとおりですね。

#### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会

患者目線で見るとそういう感じになります。

#### ○市長

また派遣期間とかについて話をする機会があったら、島の声はしっかりと届けていきたいと思っています。

#### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会

お願いします。

#### ○市長

はい。

#### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。診療所の関係で御意見等があれば、よろしいですか。では、次は7件目に移りたいと思います。7件目、高橋さんお願いいたします。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会**

7件目は「校区コミュニティ活動費補助金の増額について」です。

消防団、婦人会、島を美しくつくる会、青年団などの各種団体が、大島整備、梅の木の剪定、漂流ごみ拾い、道路の草刈りなど、島の環境整備活動をしています。活動資金が足りません。島民が協力して島の環境を維持していくために、コミュニティ活動費補助金の増額をお願いします。

7件目は以上です。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

**○市長**

御要望の中でも触れられておりますけれども、コミュニティ活動費ということで校区ごとにコミュニティ推進協議会というのを作っていただいて、その中で地元の人たちの交流が深まるようにという形で、様々な活動をしていただいていると思います。

かねてより、各コミュニティから御要望をいただいていたのを踏まえて、今年度から特別加算事業という1事業20万円補助するものについて、今まで1枠だったのですが、今年度から3枠に増やしました。一定の条件はあるのですけれども、恐らく皆さんが考えている環境活動も、ちょっと工夫すれば該当するはずなので、まずその増えた枠を使っていただいて、活用いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

**○司会（広報広聴課）**

校区コミュニティの補助金に関して何かありましたら、よろしいでしょうか。

それでは8件目に移りたいと思います。8件目、高橋さんをお願いします。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会**

8件目は「公衆トイレの設置について」です。

島内の公衆トイレは、弁天サロン、佐久島開発総合センター、クラインガルテン、東港、西港、山頂の仮設トイレがありますが、観光客の数に対してトイレの数が少なく、また、あまり清潔な状態とは言えません。

観光客がたくさん訪れる島となっていますので、公衆トイレの増設をお願いします。新たに設置していただければ、佐久島観光の会で維持運営をしたいと考えています。

8件目は以上です。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

**○市長**

現状、佐久島島内に公衆トイレが8か所あります。人数とか広さとかが違うのですが、日間賀島とか篠島はどうかというと、それぞれ4か所ずつということだそうでありますので、決して少ないとは考えていないのですが、観光客の御意見なども踏まえて、不足しているという声が多ければ設置について検討させていただきたいと思っています。

また、前回、令和元年度に市政懇談会を行った際に、トイレについて御意見をいただいて、佐久島東港から東に向かう道中へのトイレ設置という御意見でしたが、トイレの新設は多額の予算

を必要としますので、弁財天や新谷海岸方面を目指す観光客の方に対して、その間、公衆トイレがないということをお知らせする看板を設置する対応をさせていただいております。

また、佐久島東港トイレについては、和式から洋式への改修等もさせていただいておりますので、すぐにトイレを増やせるかと言われると、なかなか即答はできないわけでありますけれども、観光客の方々が利用しやすいトイレに努めてまいりますのでよろしく願いいたします。

#### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。公衆トイレの設置について、今、回答がありましたけれども、御意見等があればお願いいたします。よろしいですか。

では9番目の「消火栓について」高橋さんお願いします。

#### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会

9件目は「消火栓について」です。

島内の消火栓の一部が道路に埋め込まれています。雨水などが溜まると消火ホースの抜き差しが困難となり、消火活動に支障がありますので、立ち上げ式に変更してください。

また、集落の中など、佐久島1号線以外の場所に消火栓の数が少ないため、増設をお願いします。

9件目は以上です。

#### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。9件目の回答、市長お願いします。

#### ○市長

現在、佐久島島内に公設の消火栓というのが20あります。そのうち、御提案いただいている立ち上げ式というのが15か所なのですけれども、前回の市政懇談会をやった令和元年度時点が14か所なので、1つは増えているということと、今後、水道管の老朽化等で新たに工事等をしていく必要が出てきますので、その際に関係機関と調整を行いながら、消火栓の立ち上げ式への変更だとか、あるいは新規設置の可能性というものを模索していきたいと思っております。

なかなか一気にとは行きませんが、水道管の老朽化等の工事の際に併せて検討させていただきますので、よろしくをお願いします。

#### ○司会（広報広聴課）

9件目の消火栓について、今、回答がありました。御意見等があればお願いします。

では次に移りたいと思っております。10件目です。「市営渡船事業の運営改善について」になります。高橋さんお願いします。

#### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会

10件目は「市営渡船事業の運営改善について」です。

大型連休及び夏休み期間は、多くの観光客が渡船を利用するため、島民も観光客に混ざって列に並び、島民の中でも特に高齢者は通院のために乗船することが多いので、長時間列に並ぶことが心配です。

島民が列の最前列に並びやすいように、アナウンスを流したり、看板を設置したりしてください。できれば、三角コーンとポールを使って、島民専用のレーンを作ってほしいです。

また、真夏の炎天下の中で長時間並ぶ乗船客の熱中症対策として、日よけなどの設置をお願い

します。

10件目は以上です。

#### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

#### ○市長

このテーマについては、佐久島振興課が事前に用意してくれた回答を読むのが一番分かりやすいので、そのまま読ませてまいります。

令和元年度の市政懇談会の際に、大型連休時など繁忙期の島民の方の乗船についての御意見があり、運輸局に御意見を伺いながら運営方法を検討いたしました。

その後は、復路の乗船券をお持ちの島民の皆さんは、乗船券を購入するために並んでみえる観光客の列に並ばずに、一色港からの乗船時には改札までお越しく下さいとご案内しており、今年度も、大型連休前と夏休み前には乗船方法についてのお知らせを全世帯に配布し、周知しております。

併せて、佐久島行き船乗り場にも、乗船券を購入するための行列に並ばないように御案内するお知らせや、島民の方は前にお進みくださいというお知らせも掲示しております。

渡船も電車などと同じ公共交通機関でありますので、島民に限らず、高齢者や障がい者の方々の優先乗船はできますが、運輸局からの御指導により、島民に限定した優先乗船はできませんので、御理解ください。

次に、熱中症対策での日よけの設置ですが、乗船待ちでお並びいただいている場所は漁港施設のため、設置することができませんので、現状ではミストと大型扇風機に加え、今年度の災害級酷暑に対応するため、先週、東港渡船場にスポットクーラーを新たに設置し、対応しております。

また、クールシェアスポットとして、現在、弁天サロン、クラインガルテン、開発総合センターのロビーなどを一般開放していますので、熱中症対策として御利用ください。

一方で、民間の海上タクシーを借上げ、臨時船として増発し、なるべく長時間お待ちにならないように配慮させていただいておりますので、よろしくをお願いします。

以上です。

#### ○司会（広報広聴課）

渡船の運営改善について、今、回答がありましたが、御意見等があれば挙手をお願いします。では、お名前と地区をお願いします。

#### ○島を美しくつくる会大島様

島を美しくつくる会の大島と申します。よろしくをお願いします。

本当に今、炎天下で並んでいる状況はひどい状況になっていまして、やはり子供やお年寄りの方だけでも何とかそこを、例えば代表で並んでいただくとか、そういう形が取れるように考えていただきたいなと思います。東港で特に、また西港で並んでいるときに本当に暑い中で並んでいますので、熱中症の警報が出ているときとか、そういうときに限っても構いませんので、年配の方とか子供さんを何とか涼しいところで待たせてあげられるようにしていただきたいなと思います。

#### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。今の御意見に対するの回答をお願いします。

### ○石川交流共創部長

交流共創部長の石川と申します。御意見ありがとうございます。

先ほど、市長からもご説明申し上げましたとおり、公共交通機関ということで、電車とかと一緒にという部分はあるのですが、そういう御意見があったということをもた今後お話をしながら、対応できる部分については検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。そのほか、よろしかったでしょうか。10件目の御意見は大丈夫ですか。

では、11件目に移りたいと思います。高橋さん、11件目「島の子どもの渡船料無料化について」をお願いします。

### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

11件目は「島の子供の渡船料無料化について」です。

佐久島在住の子供たちは、通院、習いごと、しおかぜ通学の友達とお出かけするときなどに、渡船を利用しますが、毎回、渡船料を必要とします。しおかぜ通学の場合は、渡船料を市に全額負担していただいているので、島在住の子供についても同様の取扱いをお願いします。そうすることで島外との交流がしやすくなると思います。

11件目は以上です。

### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。市長、回答をお願いします。

### ○市長

なかなか難しい問題なのですけれども、渡船事業について申し上げますと、令和2年度、3年度と、コロナ禍の影響もあって赤字決算となっております。独立採算で運営していますので、今後も経営を継続していくということを考えると、なかなか運賃自体を減免するということになる、入ってくる歳入が減ってしまうので、なかなか厳しいです。目的に応じて、関係する課で助成するという形でやっていきたいなと思います。

先ほど、今年度4月から6月の渡船の利用状況を佐久島振興課から聞きましたが、コロナ禍前みたいに戻ってなくて、コロナ前に比べるとまだまだ少ないそうです。さきほど言った島民の方の暮らしを守るという意味では、減ること自体が悪いことではないのですけれども、ただ、会計的に渡船を維持していくということで考えると、今年度についてもこのペースで行くと赤字か黒字かぎりぎりぐらいなので、なかなか安易に運賃を免除するというのは難しいというところは御理解いただきたいです。

ただ一つ、今年度から新しい取組として御紹介させていただきたいのが、市内の公共交通の利用促進を図るために、夏休み「おでかけきっぷ」という取組を新しく始めました。これは、例えば親子でお出かけするときなどに、公共交通機関に積極的に乗ってほしい、1回乗ってみて、結構いいよねというきっかけにしてほしいということです。渡船だけではなくて、バスもそうなのですけれども、渡船については片道無料となる制度になっていますので、全額無料ではないのですけれども、ぜひこういったものも利用していただきたいなと思いますので、よろしく願いします。

### ○司会（広報広聴課）

11件目の島の子供の渡船料無料化について、今、回答がありました。では御意見のある方。地区名とお名前をお願いします。

○婦人会坂井様

婦人会の坂井と言います。島に今現在住んでいる子供たちの人数ってご存じですか。

○市長

子供というと何歳未満ですか。

○婦人会坂井様

そうですね、渡船料を払わなければいけない年齢なので、小学生と中学生。

○市長

何人か。

○婦人会坂井様

はい。やはりご存じないですか。

○市長

10人ですか。

○婦人会坂井様

いないですね。

○市長

いない。

○婦人会坂井様

その子たちの渡船代を赤字経営だから出してもらえないのですよね。それはいいとして、では島外から、しおかぜ通学をしている子供たちは、島っ子の人数を上回っていて、おいでおいでとやっていますよね。入学してくれるように。何か違和感がないですか。

○市長

渡船を利用する中で、島の子供が利用するときには渡船料がかかって、島の外から通学する子供たちがかからないところを見ると、多分、違和感があるのだと思うのですけれども、しおさい学校に、要は児童数とか生徒数を一定以上いないと学校自体が確保できないという問題がある中で、本当は島民の方の子供が増えるのが一番いいのですけれども、維持していくために、外からも一定数来てもらわないといけないという中で、来てもらいやすくするために。

○婦人会坂井様

移住しにくくなるのではないですか。移住したらリスクしかないですよ。

○市長

移住したらリスクしかない？

○婦人会坂井様

はい。だって、移住して用事があって島から出るときに、お金を払わなければいけないのでは。西尾の市内に住んでいて通ったほうがお金がかからないですよ。

○市長様

それは渡船を利用するときだけの話であって、生活の基盤を本土側に置くのか島に置くのかとかいうのが、そもそも違う。

○婦人会坂井様

でも、通院についても払うので、交通手段ですよ。どうしても使わなければならない。なので、これを言ったらいけないかもしれないのですけれども、定期で通っている子たちは何回来てもオーケーですよ。だから、島民の子もしくは島民の親からしてみたら、言葉が合っているかどうか分からないのですけれども、ずるいなと感じてしまうわけですよ、どうしても。だからそこを納得できるような返答が欲しいです。

赤字だから駄目と言われても、えーって。では、うちら、住んでいる意味も無いになってしまうのですよ。

○市長

住んでいる意味がないということはないと思うのですよ。

○婦人会坂井様

私は移住した人間なのですけど、払わなければいけないのは分かるんですよ。どうしてもそれを使わないと陸に行けないので。そんな中で、どうしてしおかげ通学の子は払わなくていいのか。おかしくないですか。何か伝わらない、うまく言えないのですが。だって船に乗らなければ通えないですよ、学校に。その子たちも。でも、うちらは、船に乗らないと陸に行けない。同じことではないですか。だって、学校通学以外のことで利用しているのだから、渡船を。それと同じなのですか、島の人たちは。

○市長

通学以外のことで利用しているというのは。

○婦人会坂井様

遊びに来て。

○市長

ああ、定期券を持っているからということですね。

○婦人会坂井様

そうです。

○市長

そう言われると確かにそういうふうに見えますね。

○女性

そもそも、何でおかせ通学は全額負担なのですか。

○婦人会坂井様

そう。それも教えてほしいです。

○市長

はい。

○司会（広報広聴課）

教育長いいですか。お願いします。

○稲垣教育長

教育長の稲垣です。しおかぜ通学については、まず子供たちの義務教育を保障していくという教委の方針があって、小中学校の場合は義務教育ですから、本来は義務教育は無償で担保されるという理屈の中で、その通学についても定期分は出していく。ただし、その定期を使って佐久島に遊びに行くときもただではないかというふうに言われると、おっしゃるとおりで、その部分はちょっとメリットがあるなというふうに思っています。

しおかぜ通学について言うと、元々が、先ほど市長が申し上げましたが、島の学校を維持していくためです。実際に、いくら頑張っても子供の数がなくなってしまうと学校を畳んでしまうわけですから。それはやはりどうしても避けたいという思いの中で、維持していくために義務教育学校として9年制にし、しおかぜ通学も始めているという状況なので、御理解いただくしかないかなと思っています。よろしくお願いします。

○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。それでは11件目は一旦ここで切らせていただきます。

○市長

現状ではこういうふうに答えさせていただきますけど、島への移住促進や、あるいはさっき言ったみたいに島で生活してもらいながら学校に通う子供を増やすほうがベターだというふうに思っています。ではそのためにどうしたらいいかということ、市として方策を講じていくときに、島民であれば、例えば子供は渡船を利用しても無料だよ、というのは方法論としてはあり得ます。そこは今後の佐久島への移住促進を考えていく中での課題というか、1つのテーマとして検討させていただきたいと思います。

○婦人会坂井様

今、在住の子たちはもう、無理ということですね。

○市長

いや、そういうことではないですよ。

○婦人会坂井様

ではぜひお願いします。もうどんどんいなくなってしまうですよ、本当に。

### ○司会（広報広聴課）

それでは12件目に移りたいと思います。「クライנגアルテンの入居について」、高橋さんお願いします。

### ○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

12件目は「クライングアルテンの入居について」です。

島の子供が少なくなってきた今、佐久島しおさい学校を維持するための方策が必要です。

そこで、現在設けている企業枠を変更し、親子でクライングアルテンに住みながら通学できるような入居者を募集してはどうですか。

12件目は以上です。

### ○司会（広報広聴課）

ありがとうございます。教育長、回答をお願いします。

### ○稲垣教育長

教育長の稲垣と申します。学校に関わっておりますので、他部局のことも入っておりますが私のほうでまとめてお話をさせていただきます。

御指摘のとおり、まず島内在住の子供が少なくなっており、佐久島しおさい学校を維持していくための方策が大変重要であると、これはさきほども申し上げたとおりであります。何としても学校を存続させていきたいというふうに思っています。

今年度も開催しましたが、毎年6月に実施しております市内の幼稚園・保育園の園長会の中で、佐久島しおさい学校の校長から、しおさい学校の現状やメリット、良さをPRさせていただきまして、年長の園児数分のチラシを配布しています。

また、市役所1階に「佐久島しおさい学校1年生」というPRパネルを設置しまして、毎年、広報にしお10月号では、島外から渡船で通学する「しおかぜ通学」の希望者を募集しています。このようなことで、西尾市内で「しおさい通学」をしてくれる子供たちを募っている状況であります。

実際には、佐久島に家族が来てくださって、そこで島の子になってくれるというのが学校にとっても島にとっても一番いいです。それはぜひ進めていければと思っています。そのために、教育委員会としては、学校をできる限り魅力的な学校にしていく。この学校に通わせたいと思うような学校にしていきたいということで、随分様々な教育活動に力を入れているところであります。

それから、御意見にありましたクライングアルテンにつきましては、遊休農地の利活用を目的に国の補助を受け、平成24年度に開設いたしました。現状では、農園利用を希望する多くの皆さんに公平に御利用いただくため、最大5年間までの継続利用としまして、また、都市住民の週末利用を想定しているため、住民票の異動を認めない運用となっております。

しかしながら、開設してから10年も経過していることから、今後の運用方法などについては、国と協議しながら検討してまいりたいと思います。

なお、企業枠につきましては、コロナ禍のリモート勤務に伴うサテライトオフィスなどの利用を見込み、令和2年度にインターネット環境を整備して新たに始めたところであります。現在、4社に御利用いただいております、当面は継続していく予定であります。

一方で、移住・定住を促進するに当たり、島内に散見される空き家を対象としまして、毎年、空き家の所有者や相続人の方々に対して、借家や売却の意向を伺ったりしており、近年では家族での移住が実現するなど、少しずつではありますが成果も見えてきている状況であります。

今後も引き続き、問題意識を持ちながら、島内在住の子供を増やすため、島内空き家への移住・

定住促進を図るなど、島の将来を見据えた施策を推進してまいりたいと考えております。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます。12件目のクラインガルテンの入居について、何か御意見等がありますか。はい、お願いします。地区名とお名前を。

**○青年会筒井様**

質問した青年会の筒井ですけど、この質問の先というか、自分たちが、今40なのですけど、その辺が今、島に住んでいる一番下の世代です。自分たちの次の世代が、全くもう何もいない。だから、そこを自分たちで生み出していかないといけないという課題があります。このままもう40年行ったら、自分たちの世代がなくなって、もう島民がいないみたいな感じになってきて。そこに、自分たちの次世代を作っていくための基盤として、やはり学校というものがが必要です。現役世代が移住してくるには、学校がないと説得力ない。その辺を見据えて質問をしたということを伝えたかったです。ありがとうございました。

**○稲垣教育長**

はい。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます、御意見いただきまして。

**○市長**

クラインガルテンは、利用方法などを検討していくのですが、親子で暮らすにはちょっと狭いかなというのが正直なところ。我々の立場で考えると、空き家って結構島に多いじゃないですか。持ち主の方が売却なりしてくれると、我々としても手が入られるのですが、なかなか持ち主と連絡が取れなかったり、連絡が取れていても年に何回か帰ってくるので、みたいなのが結構多いと聞いています。実質は使われていないのだけれども、というところをうまく生かして改修していけると、住む場所は確保できますよね。そういうことができればいいのかなと思っています。

何年前から、空き家をもっと活用できないかということ佐久島振興課でやってくれているので、島の皆さんも、ここの持ち主だったらちょっと貸してくれるよとか、売ってくれるよとか、何か情報をいただくとありがたいです。

**○司会（広報広聴課）**

ありがとうございます。

それでは、ここからは、自由意見交換の時間とさせていただきます。時間は4時10分ぐらいまでですので、25分程度にはなりますけども、お願いします。

最初に、市長が市政運営について説明をしましたので、その内容でもいいですし、事前にいただいた12件の関係でもいいです。御自由に発言をしていただけたらと思いますので、お願いします。

先ほどと一緒に、手を挙げていただいて、地区名とお名前をお願いします。ここからの進行は市長にやっていただくので、市長が指名をします。地区名と名前を言っていただいて発言というような形になります。なるべく多くの方に発言をしていただきたいと思いますので、質問・意見等は簡潔にまとめていただくとありがたいなと思いますので、よろしくお願いま

す。

では市長、お願いします。

#### ○市長

では、12件に関係することでもいいですし、全くフリーでもいいですし、何かこの場を借りて御意見とか御質問があれば、挙手をお願いします。

#### ○西三河漁協鈴木様

現状を知ってもらいたいということで。佐久島は、今では漁師の島、観光の島、ハーブの島と呼ばれるのですが、お客がたくさん入ってきている。その分いろいろ観光の部分があるのでしょうけれども、ほとんど漁師の島からすると、海岸や海はもうほとんど生活圏になりますので、そういうところのごみです。

今年簡単に統計を取って見たのですが、1,000名ぐらいのボランティアに海岸清掃をしてもらっているのだろうと予測を立ててやってみたら、実際にはそれどころか、1,500名近い。これは佐久島振興課に伺えば多分、ある程度の数字が出てくると思うのですが。意外と多い方に海岸清掃でゴミを拾ってもらっています。

#### ○市長

年間で1,500人ですか。

#### ○西三河漁協鈴木様

年間です。だから、太鼓のイベントとか体験学習で子供たちが来るときにも、ボランティア活動で海岸清掃をお願いしたら気楽に受けてもらえます。ゴミ袋を提供して、車に20杯以上の海岸から出るゴミ、漁師のゴミもありますけども、周りから流れてくるゴミ、もうすごい量です。こんないくら何でも資源ゴミで出せないようなものは焼却処分したり、いろいろしているのですけれども。

やはり、答志島も同じで、あそこは3県のごみが集まると聞いているのですけども。

#### ○市長

何のごみが集まるのですか。

#### ○西三河漁協鈴木様

三重県の答志島は愛知・岐阜・三重のごみ流れ着いてくると聞いています。昔はゴミの島で通っていたのですが、今はボランティアが入って島をきれいにできているみたいです。ある程度きれいにはなっているのですが、東西南北の風が吹けば、どこでも、海岸でもゴミが寄ってきてしまうと。

実際、恥ずかしい話、漁師のゴミもあるのですが、そういうゴミをこれからも拾っていただけのように、地域づくりで頑張っていきたいと思っています。なかなか皆が知っているわけではないですが、海岸のゴミというと、漁師は特に生活圏ですので重要なことです。こういうことは知っておいてもらえたらありがたいです。

#### ○市長

ボランティアというのは、クリーン作戦をやりますよと言って集まるのか。別にそういうことはやっていないけど、それぞれの人が自主的に何かそういうことをやっているのですか。

○西三河漁協鈴木様

それも全部含めて、漂着ごみボランティアというものがあります。そういう方が佐久島へ来て、今年も100人程度向こうから集めてきて、海岸でごみを拾ってもらう。その処分方法は島でやるしかないなので、資源ごみに出せるものは出して、漂着ごみでどうしても出せないごみはそのように分けて、月に1回のごみの時に出しています。

○市長

分かりました。ありがとうございます。

○西三河漁協鈴木様

いえこちらこそ、ボランティアの方には本当に頭が下がります。あまりにも人数が多いので。

○市長

島のいい環境を壊したくないと、多くの方が思ってくれているということだと思います。

○西三河漁協鈴木様

そういうことだと思います。

○市長

何か開発して、ごみごみした場所になってしまうと、別にそんなにごみがあっても、苦にならないことはないのでしょうか、けど逆にこういうところだからこそ、きれいに残したいねということなのかなと思いますね。

○西三河漁協鈴木様

分かっているだけでそれだけあります。勝手に来て、勝手に拾って、渡船場の方にぽっと置いていく人もまあ多々あります。

○市長

分かりました。

○西三河漁協鈴木様

まあそれで島が守られているというような現状です。

○市長

ほかにいかがでしょうか。

○女性

私もごみの問題です。先ほど、家庭ごみの出される量が西尾市はワースト1というふうに言われたのですが、佐久島もやはり出すごみというのは結構ありまして。一人一人がごみを何できちっと出さないといけないとか、環境問題をもう少し、一人一人が考えるという、何かそういう講座ではないですけども、何かがあれば、ちょっと変わるのかなと思います。

集まってこういうふうになったら海が汚れるとか、そういう問題をもう少し自分たちが考えていくきっかけになるような講座ではないですけども、何かちょっと市でやっていただきたいです。

**○市長**

それは本土側でもいいのですか。

**○女性**

本土側はね、なかなか。

**○市長**

島の中でできればいいと。

**○女性**

中で、それこそ若い人たちだけではなくて、みんな住んでいる人たちがそういう気持ちを持つという。まあ佐久はみんな燃やしてしまうのであれですけども、プラごみもやはり分けたほうがいい、なぜ分けないといけないとか。自分が思っても、一人一人が意識を変えていかないと変わらないのではないかなと。

さっきごみを拾ってどうのこうのありましたが、拾うよりも出すほうを考えていかないと減らないと思います。環境も良くなるかなと思うので、何かそういうきっかけがあれば。

**○市長**

町民の方が集まる機会は年に何回かあるのですか。講座をやっていいのですけども、普通に単独でやってしまうと、多分、関心を持っている人しか来ないじゃないですか。本来、ごみをもっと気をつけてね、という人は多分来ないので。何か集まる機会があったときに、そのときにちょっと時間を借りて、例えば環境部の職員がそういったことをアピールするのもいいのかなと思います。

**○女性**

そうですね。すぐにはいかないかもしれないけど、少しずつそういうふうな、一歩でも前へ進むような感じがあるといいかなと思うので、何かの機会にぜひ。

**○市長**

ごみの処理費用は何億円もかかっています。ごみを焼却する施設というのは、実は市が買う物の中で一番高く、200億、300億とかします。それは建設だけで、その後もメンテナンスをするとすごくかかってしまうので、そそごみを減らしましょうというのが一番いいのですけどね。

**○女性**

そうですね。意識の問題で、意識がどうしたら変わっていくのかというのが一番の問題かと思っています。

**○市長**

また検討させていただきます。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長**

ごみのことです。ごみ減量課の方にはいつもお世話になっております。生ごみ処理機が東も西もまだ壊れています。今年は東の生ごみ処理機が直る予定らしいですが、西のほうもよろしくお

願います。

**○市長**

どういう見込みかというのはもう伝わっていますか。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長**

東が壊れて去年予算を取って、今年発注して、東の生ごみ処理機は直る予定らしいのですが、西も壊れちゃいまして。西の生ごみ処理機は今年予算を取って、来年うまくすれば生ごみ処理機ができるということです。西の生ごみ処理機を東まで持っていくということは、車で持っていかということになってしまうので。取りあえず西のほうもよろしく願います。

**○市長**

なるべく早くできるようにやっています。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長**

そうですね。願います。

**○市長**

はい、願います。

**○西地区野田様**

西地区の野田と申します。救急のことですけれども、私は先月の7月5日に体調が悪くなって、夜間に救急搬送してもらって、西尾の市民病院に行きました。点滴が終わったのが夜中の2時だったので、点滴が終わったら帰ってくださいと言われてました。それで、離島で帰れないのですと。

**○市長**

佐久島から来たということは、先生は知らずに言ったのですかね。

**○西地区野田様**

先生に言ったら「は？」という顔をされたので、多分知らなかったと思います。そもそも知らないということが認識不足なのではないかなと思うのと、入院はできませんので、翌朝外来で消化器内科を受診してくださいと言われてたので、離島なので帰れないので、「朝までいさせていただいて受診することはできないのですか」と言ったら、入院する理由がないので帰ってくださいと言われてました。

結局、帰るところがないので、夜中の1時に西尾の駅前のホテルに電話して聞いたら、泊めてもらえるということだったので、ホテルに泊まりました。脱水症状だったので、ふらふらになりながら朝の6時半の船で帰ってきて。タクシーで。外来に行く元気もなかったもので、外来で行くとまた1時間、2時間待たされるので、取りあえず6時半の船で帰ってきたということがあったのですけども。

その辺ちょっと、朝の渡船が走る時間まで、病院で仮眠させてもらおうとか、そういうことはできないのかなと思って。

**○市長**

島民の方で、夜間に救急搬送で市民病院とかに行く方は、数としては結構いらっしゃるのですか。

○男性

後の結果までは聞いたことがない。

○市長

病院側の主張を聞いていないので、分からない部分もあるのですが、一般的なルールを島民の方にも当てはめてしまったので、聞く限りでは、ちょっと酷だなと僕は思います。

○西地区野田様

そうですね。誰に言っても「ひどいね」ってみんな言ってくれたので、こういう機会があったので市長に。

○市長

はい。そういうケースとかで何かもう少しやりようがあるように僕は思いますので、1回、病院の職員とその辺はちょっと検討というか、どうすればいいか1回考えさせていただけないでしょうか。

○男性

先生によって違うと思うけど、やはりそういう方がみえるときには、うちらが市民病院にかかっても、佐久の人間と分かると、「船の時間大丈夫、これで」と聞かれるのですよ。ありがたいことですけど。まあそういうのをね。

○市長

夜間で、帰ってくださいと言うか、ホテルに泊まってくださいというのは、ちょっと。

○西地区野田様

先生のさじ加減もあるのではないかなと私は思ったのですが。

○男性

自分の場合ですと、自分のおふくろが行ったときに、帰ってくださいと言われたときに、気が小さいものですから、「分かりました」と海上タクシーで。

○市長

例えば病院の待合に行って、ちょっと日が明けるまで過ごしてくださいねとかでもいいのですか。入院という形でベッドがあったほうがいいのか。なかなか、その入院という措置が難しければ。

○西地区野田様

ベッドの関係もあるのでしょうか。ホテルに泊ませるとするのがどうなのかなと。ホテルに泊まるか、もう海上タクシーで夜中に帰るか、どちらかしかないのです。

○市長

夜間だと救急ではないところの方、例えば外科が隣にあるのですけども、待合の椅子として結構ずっと空いているじゃないですか。

○西地区野田様

はい。

○市長

そういうところでよければ、過ごしていただくというのは。

○西地区野田様

点滴していた処置室みたいなところもベッドが幾つでも空いていたのですよ。そういうところで、せめて船が動く時間まで。夜中の2時ですから。

○男性

ぜひ検討していただきたい。

○市長

病院側の主張も聞いた上で、そこは考えさせていただきます。すみません。

○西地区野田様

お願いします。

○市長

はい。ほかにいかがでしょうか。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

よろしいですか。

○市長

はい。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

西尾市のウェブで、申請書とか請求書とかいろいろ出ているのですけど、今回、この市長と語る市政懇談会でも、質問状がウェブに載っていないかなと思って探したのですけど、質問状は載ってなくて。で、紙でくれたやつをコピーして回したみたいな感じがあるのですけど。

私は今回、自主防災で消火器を買おうと思って、一応、申請書をウェブで取ってやろうとしたのですけど、危機管理課っていっぱいあるんですよ、申請書が。それで、これでいいなと思って打っていたら、一番最初のほうで、あ、これじゃないかみたいなね。すごく使いにくい、分かりづらい。

佐久島はW i F i が、5年ぐらい前ですか、やっと通ったので。やっとパソコンが使えるようになったのですけど、それまでパソコンを使っていなかったのも、OSが古くてサポートが終わっているのも、それをメールで飛ばそうと思って飛ばなくて。取りあえず、受けて、打つことはできるのだけど、メールで飛ばせない。まあそれも、W i F i が通って初めてできるようになったので。

ただここで言いたいのは、西尾のウェブページが、申請書がいっぱいあって分かりづらい。もうちょっと何とかしてほしいなど。とにかく、私ども年寄りなので、そういうのにあまり慣れていない上に、使い方が悪いと。あと、西尾のホームページからその申請書を引っ張り出すまでが、またちょっと時間がかかる。

**○市長**

利用者の方の見方として大事な話なので、そこはちょっと僕、今現状がどうなっているか見ていないので分かりませんが。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長**

今の話でも、島民は、何のことかなと思ってますよ。

**○市長**

見やすい表示にするというのは大事なことなので、1回、その危機管理課のほうでどういう見方というか、表示の仕方をするといいかというのはちょっと考えさせていただきます。

あと何ですか。質問が、デジタルに対応しないという話ですか。

**○司会（広報広聴課）**

そうですね。町内会長さんに紙で申請書の様式をお送りして、デジタルが必要な場合はメールアドレスを教えてくださいということは、依頼文には書いているのですが、ウェブサイトに申請書の様式がアップロードされているかということ、それはしていません。

**○市長**

そういうことですか。ウェブサイトにあったほうがいいのですか。

**○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長**

まあいろいろな都合がある。字を書くと誤字脱字が多いので、パソコンで打ったほうが早いなと思って探したのですが、ちょっと見つからなかった。それだけで1時間、2時間かかってしまいますので。

**○市長**

工事要望とかも、ほかの申請もそうなのですが、基本的にはデジタルで打てるようにはしていきます。それをウェブサイトにするのか、事務局とかに連絡してもらってメールとかで送りますねとするのかは、ちょっとやり方の問題なので考えさせてもらいますが、わざわざ書かないといけないみたいなことは無くして、極力デジタルで打ち込めるようにはしていきます。

**○男性**

いや、やはり相手の顔を見ながらちゃんと書面に書いたほうが、私は好きだなあ。

**○市長**

当然、窓口で断るわけではないので。それがいいという方はそうしていただければいいのですが、なかなか手間がかかるじゃないですか。

**○男性**

いや、市役所へ行けるだけありがたいです。

○市長

そうですか。

○男性

西尾市の若い女の子と顔をつき合わせて。

○男性

ああそういうことですか。

○男性

そういうことです。

○市長

従来型のやり方も残しておきますので。

○男性

そちらのほうが大事です。パソコンを見ると気持ちが悪くなってしまいます。

○市長

ほかにありますか。

○婦人会坂井様

質問なのですが。ごみを出すときに、前、紙ごみを捨てる用の何か大きい紙袋みたいなやつが1軒に1個配布されたことがあったのですが、これは終わったのですか。

○市長

今年は来ていない。

○婦人会坂井様

そうですね。1回きりだったのです。何で1回きり。

○市長

あれは、雑紙という紙類のリサイクルの意識を高めるために全戸配布をしたということで、実際に回収率が上がっているのも効果はあったと思っています。あの袋を何万個も作るのも、それなりにお金がかかるじゃないですか。普通の紙袋とかに入れて出してくればいいです。そこが伝わっていなかったら申し訳ないのですが、あの紙袋じゃないといけないわけではなくて。あれはきっかけとして、あ、こういうものも紙で出せるのだとか、リサイクルできるのだというのを意識として高めていただくためにやった、というふうに思っていたきたいです。

○婦人会坂井様

それを、佐久島は月1の第3に出せるのです。ほかのごみ、ペットボトルとか、そういう資源ごみも。それを出す場所に、西は誰も出していないで。

○市長

どうしたらいいですかね。

○婦人会坂井様

で、何か、出したんですよ。

○市長

ちょっと土地勘が。確かにそうですね。

○女性

可燃と一緒に。

○婦人会坂井様

可燃と一緒に出せばいいんだ。

○女性

紙も出して。

○婦人会坂井様

出し方も分からなくて。

○女性

一生懸命、私、分別して出しているんですけど、台船でもうぐちゃぐちゃに持って行くんですけど、それ本土でちゃんと分かれていますか。

○婦人会坂井様

紙ごみの回収は、燃えるごみではなくて、回収してくださっているということですか。

○市長

通常はルールとして回収しているんですけど、島という特殊事情があるので、ちょっと佐久島においてどうなっているかというのは、僕もすみません把握をしていなくて。

○婦人会坂井様

段ボールとかは縛って出しているんですけど、その紙ごみは。

○男性

ごみステーションに移しちゃうんだって。

○婦人会坂井様

ああそうなんだ。

すごい家にたまっていて、今。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

本とか新聞は大きさが揃っているの、するのだけど。

○婦人会坂井様

そうそう、分かるんですよ。

○高橋伸義佐久島小校区代表町内会長

こういう紙のぺらぺらのやつは。

○司会（広報広聴課）

佐久島振興課長いいですか。

○服部佐久島振興課長

佐久島振興課長です。今の雑紙の回収についてですが、担当課に確認いたしまして、今後、島民の皆さんが分かる形でまた改めて周知させていただきます。本土という言い方が正しいかどうか分からないのですが、本土でも回収するのではなくて、ステーションに持って行ってありますので、その辺をちょっと御理解いただけるようお願いいたします。佐久島はこういう形でやっているというのをまた改めて、原課に確認してお伝えいたします。

○婦人会坂井様

すみません、もう1回いいですか。紙ごみ、こういう雑紙ですかね、出したら回収に来る方がみえて、ちゃんとリサイクルセンターに出し・・・。

○服部佐久島振興課長

それは佐久島にはないです。

○婦人会坂井様

佐久島にはない。では、佐久島の人たちは燃えるごみとして出していたということ？

○女性

多分。

○男性

今は、雑紙というのは、混ぜて出していないの？

○男性

一緒に出しちゃってるよね。新聞紙と一緒に。

○市長

今は燃えるごみとして？

○男性

本の中に。本と本の中に挟んで出してた。

○市長

確かに、普通に燃えるごみとして出してしまえば、燃えるごみとして処理されてしまいます。

○婦人会坂井様

そうなのです。

○市長

それが台船に乗ったときにどういう扱いになっているのかというのは、ちょっと僕も分からなくて。全部一緒くたに乗ってしまうわけですね。

○婦人会坂井様

西尾市内に、陸に住んでみえる方たちは、各自それを持っていってみえるのですね。

○市長

確か月2で回収していると思います。ステーションで。町内会ごとにステーションとかがあって。

○婦人会坂井様

ステーションに持って行くのですよね。段ボールも。

○市長

そこに月2か何かで回収しているのと、あと、市役所とかにも常設のステーションがあるので、そこに持ち込んでくれれば随時受け付けています。

○婦人会坂井様

では、今まで段ボールとかも、何か結わえて、雑誌とかも出していたのですが、それは回収業者には。

○市長

リサイクルされているはずですが、ちょっと、台船がどういうふうになっているかというのは。

○女性

台船に乗っているやつはどういうところが持っていかれるのかというのは、分かっているのですよ、私たち。

○市長

1回確認して、そこはちゃんと。

○服部佐久島振興課長

すみません、担当者のほうに確認いたしますので、また皆さんにお知らせできるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○司会（広報広聴課）

そろそろ時間です。

## ○市長

では、最後に1人ぐらいあれば。なければ締めさせていただきますけども。では最後にどうぞ。

## ○観光の会中村様

観光の会の中村です。最近、観光の会が西尾市とか愛知県で行う会議に出なければいけないというのがあって、そのときは1泊泊まりとかで愛知県まで行って帰ってくるみたいなことがあるのですが、そういうときに、今回、愛知県にはお願いしたのですが、オンラインでの会議の参加を認めていただきたいなと思ひまして。それも、枠を一応作っておいていただけると。

## ○市長

何を作る？

## ○観光の会中村様

オンラインの枠を作っていただけると、そちらまで行くことなく、その時間内だけで済みますので、そういうことがあればやっていただきたいなと。

## ○市長

分かりました。要望は伝えさせていただきます。市あればそれで問題ないと思ひます、オンライン対応でも。どうにも出ていただかないといけないようなことがあれば、それはお願いするのでしょうか、別にオンラインで問題ないような会議であればいいのかなというふうに思ひますので。ちょっと1回そこを持ち帰って、対応を考えさせていただきます。

ではすみません、以上とさせていただきます。

## ○司会（広報広聴課）

はい。分かりました。

皆さん、いろいろな御意見をありがとうございました。また円滑な進行に御協力いただきましてありがとうございます。

最後に、閉会に当たりまして市長から御挨拶申し上げます。

## ○市長

今日は短時間でありましたけれど、どうもありがとうございました。佐久島が注目されているがゆえに、島をもっとこうしたい、ああしたいという、いろいろな声が僕のところに届いてくるのですが、ただ、佐久島は開発しなくて原風景が残っているところが一番いいところなので、そこは残しながらいかに島の活性化を図れるかというのを考えていきたいということと、やはり島で暮らす人たちがどういうふうに考えているかということは、すごく僕は大事なポイントだというふうに思ひています。

島に住んでいない方々が島をこうしたいという意見も大事ではありますが、こういった場で直接意見を聞かせていただいたり、佐久島振興課を通しながら、島の皆さんがどう考えているかということを丁寧に聞きながら、今後ともまちづくりに取り組んでいきたいというふうに思ひますので、皆さんも積極的に声を聞かせていただけるとありがたいと思ひます。

懇談会は4年に1回でありますけど、僕は年に何回か佐久島に来ていますので、もし見かけたら気軽に声をかけていただければ結構なので、よろしくお願ひいたします。本日はどうもありがとうございました。

○一同 ありがとうございます（拍手）。

### ○司会（広報広聴課）

最後に、事務局から4点ほど連絡をさせていただきます。

今日の資料の中に、アンケート用紙が入っておりますので、こちらに御記入いただき、御協力いただけるとありがたいです。お帰りの際に、後ろにアンケートを入れる箱がありますので、アンケートと鉛筆をそちらへ入れてください。

それから、もう1つ、また同じような紙、サイズは一緒なのですが、「市民の声」ということで、皆さんの意見等を受け付ける用紙も入っていますので、何かお気づきの点等がありましたら、そちらの用紙に御記入いただいて、また御意見をお寄せいただければありがたいと思います。

3つ目は、今日はチラシを3つ配っています。1つが、こういった市長が前面に出ている、「出張・市長のどこでもトーク」というものです。今日は市民懇談会という形で皆さんから御意見を賜りましたけれども、市長は、人数が集まったところは、いつでもどこでも行けるという柔軟な制度がございますので、また皆さん、市長と話したいなといったときは、我々、広報広聴課へ御連絡いただくと、日程を調整して市長がそこへ出向くという形の制度がございますので、よかったですら使ってください。

それから、こちらの「スマート申請」。デジタルの話が先ほどありましたけれども、今、市役所に行っていただけという方も見えますし、携帯でやっていただける方もいるということで。携帯でやる場合は、本当に簡単にやれるようになっていきますので、またチラシを見ていただいて、分からなければ市役所にいつでもお声がけいただければ説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

もう1つ、ちょっと派手なチラシがあると思います。こちらが、10月22日に歴史公園付近を中心としまして、まちなかを周回してもらうような、「まちなか創出イベント」というのをやって、その中で、お笑いのイベントをやります。今、そのお笑いに出ていただける出場者を募集していますので、ぜひ、もし御興味がある方は参加していただければありがたいなと思っています。

それから最後にですが、今日の次第のところに、さっきLINEの話もあったと思うのですが、西尾市にもLINEがあるのですね。今10万人以上が登録していて、このところにQRコードがあって、それを読み取ってもらうと、LINEのおともだち登録ができます。

今、このLINEを通じていろいろな市政情報を発信していますので、今日もし帰りに、LINE、私登録したいわ、という方がみえましたら、やり方を職員がお教えしますので、ぜひ声をかけていただければありがたいなと思っています。

連絡事項は以上です。

それでは、これをもちまして、「市長と語る市政懇談会」佐久島地区を修了いたします。どうもありがとうございました。